

あつい!

こんなに早い時期から、夜中の冷房にお世話になったことがあったでしょうか。先週は停滞前線が、本州を覆ったものの、今週は太平洋高気圧の勢力が強まって、夏のような暑さです。今日も明日も湿度が高く暑い日が続きそうです。鎌倉で校長をしている仲間から写真が届きました。「校外学習の見送りのため、国道134号に立つと潮の香りとともに湿った空気が漂います。標高50mほどの江の島に雲がかかっていました。」海岸沿いも蒸し暑いようです。

あついと言いながら、校舎を歩いていると、分厚い教科書や問題集の山に遭遇します。授業時間を問わず、休み時間にも勉強



強している姿が見受けられます。三年生にとってみれば進路選択に繋がる大切な試験。教科書やノート見つめる目は鋭く、視線の停滞を招いています。同じところを何度も考えながら読んでみましょう。18日からは試験本番が開始されました。背中越しに真剣さが伝わってきました。



あついといえば、「燃える男」と称された、長嶋茂雄さんが、旅立ちました。大舞台でめっぽう強く、オールスター戦では打率3割1分3厘、日本シリーズでは3割4分3厘といずれも歴代1位、満塁では3割2分8厘。チャンスになればなるほど力を発揮する選手でした。

天才と騒がれた長嶋さんでしたが、試合後に徹底した素振り。ある時は対戦相手を考え、夜中であって電気を消したまま納得するまでバット振り、相手のピッチャーによってバッティングの構えやグリップの位置を変化させ対応していました。また、連戦で疲れていても、練習から手を抜かず、休みを提言されても「ファンが観に来てくれる」とグラウンドに立ちました。観客を魅了することにこだわり、ステップや、スローイングにも歌舞伎の所作を参考にして技術を変化させました。空振りですら観客を魅了するためにと、如何にヘルメットをカッコよく飛ばすか、鏡の前で練習しました。全ては猛練習で培った技術なのです。当時の大リーグスター選手、ジョー・ディマジオの『ファンがあつての野球』という考え方をきっかけに、長嶋さんのファンに対する姿勢が変わりました。これら変化できる思考や姿勢が、今なお語り継がれる「記録にも記憶にも残る選手」を創ったのでしょう。



清瀬中の皆さん、今日で試験が終了しました。どんな天才も猛練習が支えているのです。勉強もしかり。今回思ったように点が取れなかった人は勉強方法や取組方法を変化させてください。思ったように取れた人は更に優れた方法を求めて変化をいとわないでください。

皆さんに、勉強をやっていたい前線がとどまることを期待しています。

理科では「湿った空気が山肌を上昇するから露点に達して雲ができる。」と説明します。海上に吹く湿った風が高々標高50mの江の島に次々ぶつかり風向きを上昇に変化させ、雲ができました。「小さな山でも気流を変化させ、雲を作ることができる。小さな変化でも積み重ねれば何かを作ることができる。」長嶋さんがそう語っているように思っていました。

後のインタビューで「豪快にフルスイングする。小さな事だが数を重ねればピッチャーには私への脅威が蓄積していく。やがて苦手意識をもつように…」観客を魅了するだけではない熱い男です。